

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	0170503106		
法人名	株式会社フロイデプランニング		
事業所名	グループホームけあふる もみじ		
所在地	札幌市南区藤野4条2丁目3-12		
自己評価作成日	平成29年10月14日	評価結果市町村受理日	平成29年12月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&lijyosyoCd=0170503106-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミクス総合研究所 介保調査部
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階
訪問調査日	平成29年10月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各ユニット月に一度は行事を行っており、特に入居者様の誕生日会では寿司パーティーを開催し入居者様から好評である。また、天気の良い日にはできるだけ外気浴を行うよう努めている。施設内は、全面バリアフリーで共用スペース・居室共に床暖房が設置されているため、入居者様に快適で心地良い暮らしができるよう配慮している。共用スペースには、季節感を感じていただけるような飾りつけを季節に合わせて行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、札幌市南区藤野の閑静な住宅地に位置した、法人の広い敷地内にある2階建て2ユニットのグループホームである。近隣には、公園や幼稚園、学校、ホームセンターやファミリーレストランなどがあり、利便性のよい地区である。敷地内には、同法人のグループホームとサービス付き高齢者向け住宅や高齢者専用賃貸住宅、住宅介護支援、訪問介護、福祉用具貸与事業所があり、各事業所は連携して高齢者の介護と生活支援に努めている。本社は中央区にあるが、代表者は殆ど毎日各事業所を巡回して経営理念を基にケアの周知に努めており、特に医療機関のデイケアの活用を業界で先駆けとして行っており、効果が期待されている。ホームは、現在の場所に一昨年の2月に新築移転し、ゆったりとしたリビングや食堂、非常口の避難階段を2階に設置するなど災害時に配慮している。そのため、町内の一画を占め、介護事業所が集約していることにより、災害時の地域の避難場所となっている。高齢者の生活支援と介護にこれからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	尊厳・自立・自由を事業所理念として掲げており、全職員が理解し業務にあたっている。定期的なカンファレンスを行い、理念に沿ったサービスの提供を心掛けている。	年1回行われる総合カンファレンスにて職員全体で話し合い、その理念を共有して、実践できるよう努めている。	総合カンファレンスにて、理念について職員全体で話し合い共有して実践につなげるよう取り組んでいるが、年に数回の振り返りを含めた検討会を行い更に共有することを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	賛助会員として町内会に参加している。町内会の清掃行事や祭り等に参加したり、事業所内の行事には町内会の方を招待したりと、地域住民との関係が途切れないように努めている。	町内会の行事には出来るだけ参加していて、散歩に出かけたときには挨拶を交わしている。毎年、神社祭りの子供みこしが来てくれるので、交流を楽しみにしている。	町内会の行事に参加したりして、地域との交流をしているが、事業所主催の夏祭りの開催やその他行事に地域の方やボランティアなどの参加や交流を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の特色については、運営推進会議等で説明し知って頂いている。また、認知症や介護について困ったことがあれば、いつでも相談を受け付けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。事故や活動の報告を行い参加者より意見を頂いている。地域包括職員、町内会、ご家族様の意見を基にサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、地域包括支援センター担当者、町内会長、家族が参加して定期的に行われており、事業所から報告の後、情報交換を行い、サービス向上に活かしていけるよう取り組んでいる。	地域包括支援センター担当者や地域の方、家族が参加して、定期的開催しているが、ホーム便りなどを活用し、事前に案内をするなどして地域の方や家族の方の参加者増を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターの職員の方や、区役所職員の方との連絡を日頃から行い、協力関係が築けるようにしている。	地域包括支援センターや区役所の職員とは日頃から連絡を密にして、協力関係が築けるようにしている。また、市や区の管理者会議にも積極的に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上の視点から、夜間帯のみ玄関を施錠している。身体拘束については、ユニット内で内部研修を行い、職員の周知に繋げている。	身体拘束についてはマニュアルを揃えており、研修は内部で年1回実施し、職員の共有認識を図っている。夜間のみセンサーを使用している利用者がいて、ケアプランにて同意をもらっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット内の内部研修を実施し、虐待がないよう注意喚起を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方もおり、後見人とは連絡を密に取っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には本人様とご家族様の立ち会いの元、契約書の読み合わせを行い、疑問・質問について詳しく説明し納得していただいた上で、契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設けている。相談・苦情・要望などの内容を記録し、誠意を持って対応するようにしている。すぐに対応できない場合は、運営の主体である本社に報告・相談している。	ホーム便りは毎月作成し家族に送付していて、ケアプランの更新時にはケアマネが利用者の生活状況などを報告している。玄関に意見箱を設置して、意見や要望を出してもらえるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内の総合カンファレンスでは、代表者も出席し、意見や提案を行える機会を設けている。また、定期的に個々と代表者との個人面談を実施している。	代表者も参加する総合カンファレンスが年1回、個別カンファレンスを月1回行い、意見や提案を聞く機会となっている。また、日頃から聞き出したりするようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の勤務姿勢や面談により、各社員の勤務成績を査定し給与改定を行っている。給与体制はキャリアパスを公示し、要件を明確にすることで職員の意欲向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップとして資格習得に歓迎であり、それに伴う日程調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	市や区の管理者会議に参加している。そこで、他の施設の管理者との活動内容について情報交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様やご家族様へ十分な聞き取りを行い、施設で生活していく上で不安なことや要望等を反映出来る様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前の面談や見学の段階から、本人様やご家族様の要望を聞き出せるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取りや相談の上、必要に応じて協力医療機関のデイケアを利用するなど、様々な支援の方針を決めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、役割を持っていただけるように支援している。食器拭きや洗濯物たみ・干し等で無理のないよう配慮して行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が面会に来られた際には、都度本人様の状態の報告を行っている。支援する上で困っていることなどを相談し協力を求めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人が面会に来られる時もあり、来所される方々と入居者様との関係性の把握に努めている。	近所にあるコンビニが馴染みの場になっており、買い物に付き添ったり、友人の面会時には継続的な交流ができるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席や行事等の座席は、入居者様同士の関係性の把握に努め、配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した入居者様でも、そのご家族様からの相談などがあれば、できる限りの対応を実施している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からコミュニケーションを行い、話の傾聴を行っている。意思疎通が困難な方などは、本人様の立場になって考え、ご家族様も含めた話し合いを実施し、方針を決定している。	日々のかかわりの中で、よく話を聞くようにして、希望や意向の把握に努めており、家族からも情報を得るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族様に入居前の話の聞き取りなどでこれまでの生活歴やサービスの利用歴などを記録し、以前利用されていた施設や医療機関との情報共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や本人様からの訴え、心身の状態などは常に介護記録に残すようにし、職員同士の情報共有を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様のニーズやご家族様からの希望、医師や看護師の意見を取り入れた介護計画を作成している。定期的に本人様の状態変化に合わせて、その都度見直しを行っている。	日頃の様子や身体状況を職員で情報共有して、意見交換やカンファレンスを行い、時には医師や看護師のアドバイスも取り入れて現状に即した介護計画を作成している。モニタリングは毎月行い、定期的と変化に応じて見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画は実施状況等個別に記録しており、すぐに確認できるようにしている。また、ケアカンファレンスでモニタリングの結果を話し合い、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人のニーズに応えられるように、本人様の状況変化に応じてアセスメントをとり、都度ご家族様に相談し、介護計画の見直しを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事や福祉促進の取り組みを把握し、入居者様が参加できる行事には参加している。また、運営推進会議などで、参加された方々からアドバイスをいただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様が常に適切な医療を受けられるよう、通院介助や医療機関との情報共有を行っている。	月2回、協力医の訪問診療があり、24時間体制で対応してくれる。受診は、本人及び家族等の希望を聞き、適切な医療を受けられるよう複数の医療機関と関係を密に結んでいる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の訪問看護の他に、入居者様の体調変化があった際には、その都度状況報告をし、適切な看護を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日々の状態変化の把握を行い、入院時の情報提供を詳細に伝えられるようにしている。定期受診などにより、病院の医師や相談員と情報交換を行い関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合の方針・終末期の説明を行っている。実際に重度化した場合には、医師やご家族様と話し合いを行い、今後の方針を決定している。	事業所で作成した「重度化した場合の対応に係わる指針」を入居時に説明し、同意をもらい、本人や家族の意向をもとに医師、職員が連携を取りながら支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に普通救命講習を職員が受ける機会を設けている。法人内の役職者が講師資格を取得し、法人内で講習を行える環境を整えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防職員立ち会いのもと、避難訓練を実施している。また、災害に備え、常時持ち出しの物品・水・食料の確保を行っている。	非常用の食料備蓄・連絡網の整備・避難場所の把握等のマニュアルを作成し、消防署の指導の下、年2回利用者とともに避難訓練を行っている。	消防署の指導の下、年2回定期的に避難訓練を実施しているが、地域の方や家族の方の見守り等の参加協力を期待する。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送り時やカンファレンス時は、入居者様の情報が他者の耳に入らないよう注意している。入居者様一人ひとりに合わせた声かけを行っている。	利用者の誇りを傷つけないよう、言葉かけや対応に配慮し、状況に合わせた声かけをするように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の状況に応じて、自己決定が出来る様に、質問を二者一択にするなどの工夫を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	大まかな一日の流れはあるが、各入居者様の体調やその時の気分などを優先し支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はなるべく本人様に選んでいただけるようにし、本人様の好みの把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭き等の手伝いを入居者様と一緒にしている。行事の際には、入居者様からの意見を取り入れたメニューの作成を行っている。	食事を楽しんでもらえるよう節分恵方巻、土用の丑の日のうなぎ、敬老会にはお寿司等の行事食を提供している。利用者が食事をしている間、食欲が進むよう声かけをして、職員はサポートに徹している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量や水分量を把握し、栄養が保たれているか医師や看護師と情報共有している。また、昼食・夕食は配食サービスを利用しており、栄養のバランスがとれている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア時に使用する歯ブラシ等は、個々に用意しており、見守りや介助を行ない、清潔が保たれるよう支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自尊心を傷つけないように配慮し、さりげなく排泄誘導や確認を行うよう心がけている。	排泄チェック表を使用したり、職員が排泄のパターンを把握して、自尊心に配慮したさりげない声かけで誘導してトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中には便秘予防も兼ねた体操を実施している。また、必要に応じて、牛乳やヨーグルトなどの提供も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	大まかな入浴日はあるが、本人様の希望に応じて臨機応変に対応している。	一人ひとりの体調や、その日の気分などを優先して支援を行っており、希望に合わせて、週2回は入浴してもらえるように対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡の時間を設けたり、夜間帯は光や音で睡眠の妨げにならないように注意している。また、褥瘡防止のため、定時での体位交換や、ご家族様と相談のもと、除圧対応の寝具を使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容に変更があった際には、職員がしっかりと把握し、薬事情報はいつでも確認できるようにファイリングしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意・不得意や好き嫌いを把握し、役割の提供や余暇活動の支援を行っている。入居者様一人ひとりをよく見て把握するよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様の希望による外出や外気浴には可能な限り対応している。行事の際にはご家族様や地域の方々のご協力を得ている。	暖かい時期には積極的に散歩に出かけ、近くのコンビニで買い物をしたり、花見をして楽しんでいる。また、家族と病院受診の帰りに外食をしたり、近くに神社があり、初詣に行くこともある。	近隣の散歩やコンビニでの買い物、お花見や初詣など個別に外出の支援をしているが、家族やボランティアの協力等も含めて検討し、計画的な外出支援を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、ご家族様同意のもと、少額であるが自己管理されている入居者様もいる。自己管理が困難な方は、ご家族様同意のもと、本社で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月に一度、各ユニットごとに〇〇通信として送付し、入居者様の様子をお伝えしている。また、電話の取り次ぎや手紙の送付などは都度対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた共有空間の飾りつけを行っている。光や室温の調整など配慮し、季節感を出すための工夫などを心がけている。	食堂兼居間には程よい大きさの食卓テーブルが配置されており、そのテーブルをよけると広いスペースで、毎朝、体力づくりのため全員で体操をしている。くつろぐ空間にはソファが置かれ、利用者はゆったりと安心して過ごしており、壁面には季節感を採り入れた飾りつけがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人様の好きな場所や過ごしやすい場所の提供を心がけている。気の合う入居者様同士で過ごせるよう、ソファを配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、本人様が自宅で使用していた物や飾られていた物など馴染みのある物を、居室に飾ったりしている。	本人や家族と相談しながら、居室は、利用者の馴染みの家具類を使いやすいように配置し、家族写真や装飾品などで居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室に表示案内を付けている。居室ごとに表札を掲げたり、車椅子の走行や歩行時に危険がないようスペースの確保を行っている。		